

予報期間 9月1日から9月7日まで

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要しょう乱の概要&gt;

- 9月3日は、低気圧が千島の東へ進み、前線が日本の東から関東地方の東海上へのびる。
- 3日から5日にかけては、高気圧が日本海から日本の東へ移動する。東・西日本付近は日本の南の高気圧の縁をまわる暖湿気が流れ込む。
- 6日から7日は、低気圧が中国東北区からサハリン付近へ進み、前線が日本海へのびる。

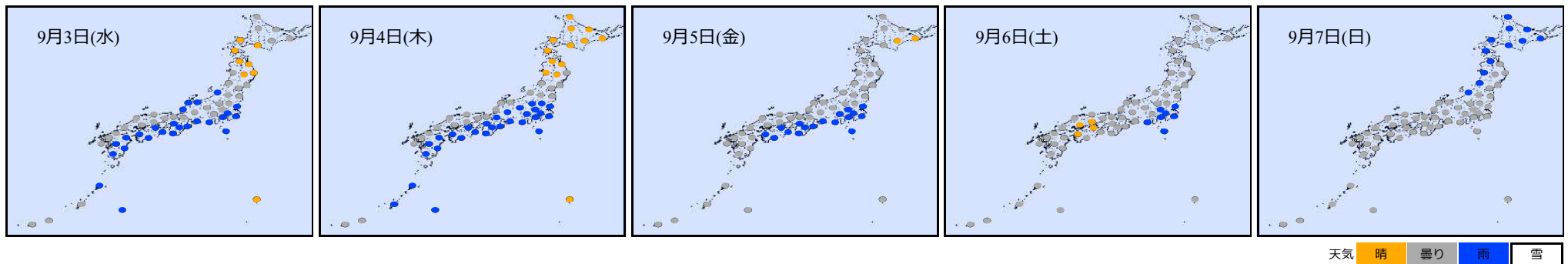
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 北日本から西日本にかけては気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

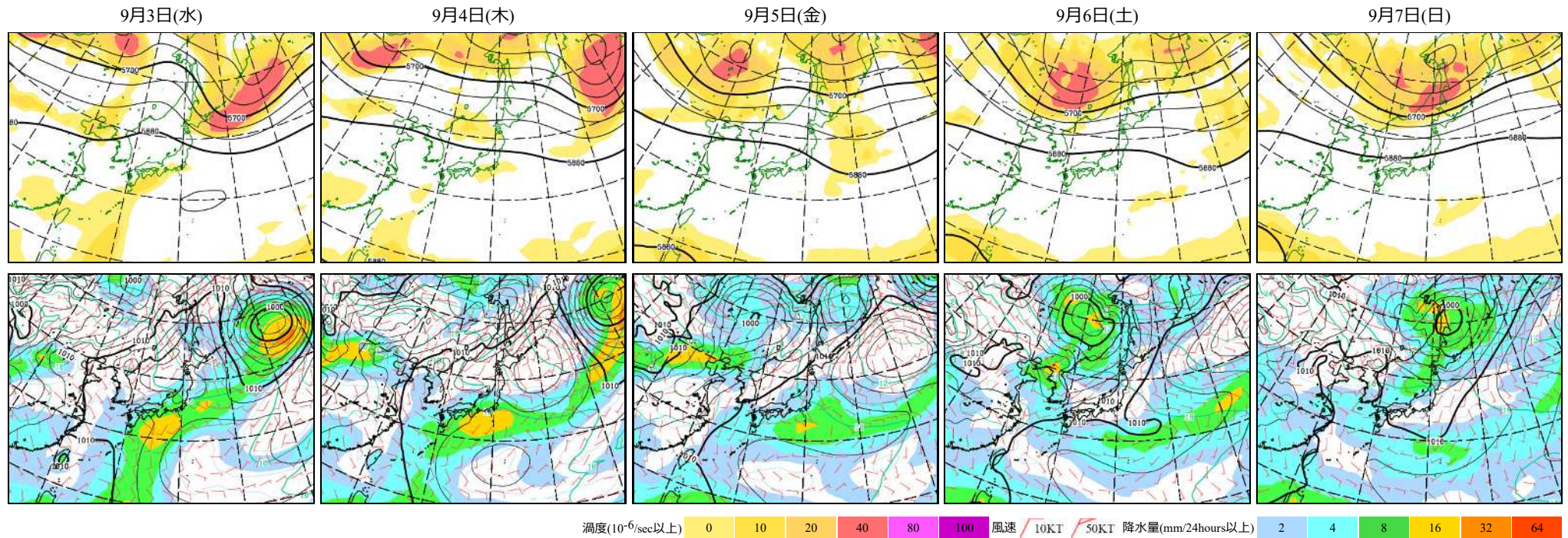
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

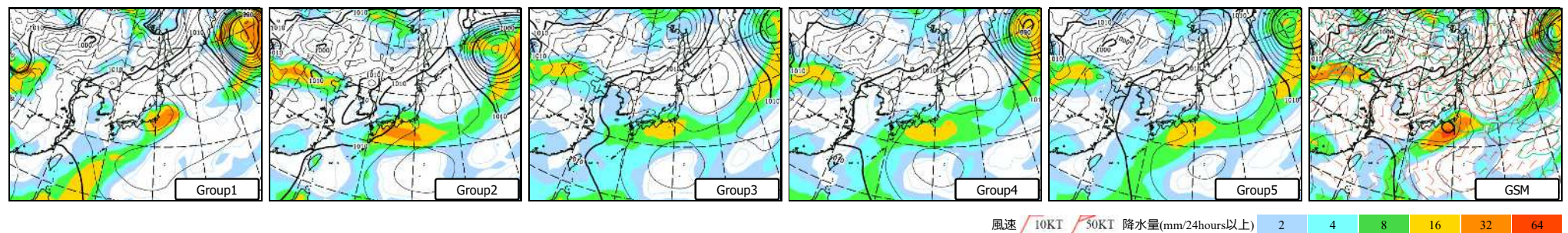


- 北日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、9月7日は雨の降る所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、3日と4日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月4日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、3日から4日はサハリン付近を通過するリッジが強まり、日本の東へ移動する高気圧が明瞭となった。
- 各モデルとも、熱帯じょう乱が本州南岸を東進する予想はおおむね揃ったが、位置やタイミングについてはモデル間の差が見られる。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは5700m付近のトラフの深さにばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報はおおむね最新のENSを基に考える。
- 東・西日本を中心に熱帯じょう乱の影響を受ける可能性があり、熱帯じょう乱の動向によっては予報が大きく変わる可能性もあることに留意。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。